



県政ハイライト
県政ハイライト
県政ハイライト



7・21 天草郡姫戸町に建設中のヤマハ発動機天草工場が落成。ポートなど月産は1,000隻。



7・22 全国10カ所の海中公園のうち、富岡・天草・牛深が正式に指定されクローズアップした。



8・12~15 県内企業を紹介する“明日をひらく熊本産業職場展”が開かれ、連日盛況を示した。



8・14 宇土市に勤労青少年体育センターが完成。地元企業に働く若手労働者のための体育基地。



8・14~15 台風9号が県下を急襲。果樹・農産物の被害をトップに被害総額は74億円に達した。



8・18 新熊本空港の施設変更および延長・進入表面等の指定についての公聴会が開かれた。



8・19 J MHC 熊本会(ハム)の会員 200人を母体とした県非常災害無線協力隊が発足した。



8・19 国・県・市町村が一体となって公害行政を進めるため、「県公害対策本部」がスタート。

もう私たちは泣かない

佐藤澄子(小学六年)

父が事故にあったと聞いて、病院へかけつけた時、父は眠ってしまいました。その顔は、その朝見た、父の元気な顔とは思われないほどに変わっていました。それから九日間、息をひきとるまで、とうとう父は眠り続け、目を開こうとも、私の名を呼ぼうともしませんでした。せめて、一度でもいいから、私の顔を見て、何かひとことでも言って欲しいと思いました。でも父だってもっともっと、たくさん言い残したいことだっただけであつたでしょうし、死にたくなかなかつたはずで。

父が亡くなってから、しばらくは、いろいろなあどしまつで、にぎやかでしたが、人が帰ってしまうと、さみしくなつてしまいました。でももう私たちは泣いたりしません。父だつて、家じゅうみんなが、仲よく元気であるのを、きつと天国で願っているでしょうから。ただ加害者との話がうまいっていいことを聞くと、また悲しくなつてしまいます。

交通事故とは、健康な人まで、一しゅんにして死に追いやるほど、おそろしいものです。私たちにできる、父への一番の供養は、二度とこんな、ひさんな事故が起らないようにすることだと思えます。それには、まず、一人一人が、交通安全をしっかり意識し、他人ごとではない、ということ、自覚しなければならぬと思います。そして一部の人にまかせておかないで、自分から進んでやらなければならぬと思います。

もうこれ以上、交通遺児をふやさないようにして下さい。

(注)交通遺児作文集「天国にいたるおとうさま」から抜粋。